

「私の福中時代」

軍国主義真只中、授業中に長先生が

「この戦争のあとが大変だよ」と

平野治平(中学22回)



よくぞ我慢……

優れた医療と保険制度のお陰で、卒寿まで生き延びて來た。思えば、福中時代は、正に軍国主義の真只中。文字通りの総力戦、すべてが戦争遂行のためであつた。今から考えれば、国民にとつては、何もない、何もできない日常生活、生きるのがやつと。正しいとは、とても言えぬ戦争の大義。よくぞ我慢したものだ。

そんな鬱屈した状況下でも、福中生は意外と明

るく元気であつた。ライバル校修猷館と文武両道にわたつて、互角以上に渡り合つていた。「花園」を目指しての春日原頭のラグビー、高等学校、とりわけ一高及び陸士、海兵への合格者数等々。先生方の指導力の賜物である。

懐かしい仇名がある。

淳ちゃん、雲助、英八、モタ、ドラゴン、長さん、くされ、神経、ステ、チャボ、卯ちゃん等。仇名は、文字数は少なくとも、それ以上に物を言う。また、聞く人それぞれの異なる思いがある。

淳ちゃん、元陸軍大尉は、独特のダミ声で叱咤する。すると怖いが、愛嬌がありた。雲助こと英語の川越先生は、「some」を「ソメチメ

ス」と発音したといわれた豪傑である。眼鏡の奥の目が優しかった。長さんは、いつも赤黒く燃え沸つて、更に上へ上へと異状な勢いで噴き上がりつて行く。

高度5千メートル以上。「新型爆弾」か? 通信講堂での敵信傍受に依れば、「atom bomb」だ。勇気の要る発言であつた。

8月6日、江田島駅止むに止まれぬ気持ちで、受験・合格した海軍兵学校は、第75期だった。四修・五修で先に入っていた福中同級生が、73期、74期の少尉候補生として卒業して行くのを見送つた。

昭和20年8月6日前受験。回り道だが、自分で21年春、第一高等学校懸命に考えた「人間」はネジの巻き直しのつも学生は、東京周辺の大学など2年生以上の方が参加しましたが、中には、大阪から参加した方もいました。学生参

加者の方も参加しました。学生は、起業家や転職経験者の方も参加しました。多くの工夫をするなど流できるように、約30分おきに席替えを行いました。学生参

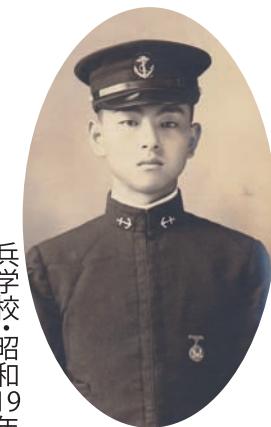
フレー!フレー!就職活動! 東京福中・福高同窓会初の 「就活を応援する会」を開催

報告:会員拡充委員会委員長
新谷康之(高35回)

人参加者から、窓生同志の交流もできたと好評でした。一方で、参加者募集の際、学園祭との経験談や担当業務の内容、各業界の動向などを紹介され、学生参加者も熱心に質問をしていました。会合は盛り上がり、二

次会にも多くの方が参加されました。当委員会では、2年前から東京福岡県人会主催の同様の会合に参加し、福岡県立の各校同窓会と協力して、福岡出身の若手の就職活動を応援する活動に興味のある方はご連絡ください。また、当同窓会のフェイスブックでもこのように若手会員をはじめ多くの会員拡充に向けた取組を進めたいと考

えていました。当委員会活動に興味のある方はご連絡ください。また、当同窓会のフェイスブックでもこのように若手会員をはじめ多くの会員拡充に向けた取組を進めたいと考



兵学校・昭和19年兵学校2号生徒



昭和13年福中1年生

正教養主義の余燐に浸りながらも、懸命に「人間」を考えた。長さんの一言が蘇ってきた。正

も、懸命に「人間」を考えた。長さんの一言が蘇ってきた。正

澤美保子さんが経営する居酒屋「三丁目の串もん屋」(もちろん、大澤さんも参加されました)。美味しく串焼きを肴に飲み

楽しい雰囲気の中、社会

